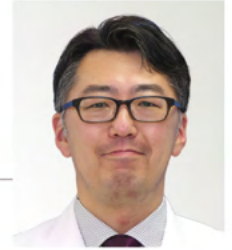


がん対策推進総合研究事業

「がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究」班からのアンケートのお願い

松坂 方士 JACR理事

弘前大学医学部附属病院



全国がん登録事業は平成28年から開始されました。その根拠法である「がん登録等の推進に関する法律」には、第四十六条で行政のがん対策の充実を目的とした全国がん登録データの活用が規定されています。

また、がん検診は健康増進法第十九条の二に基づいて市町村が実施する保健事業ですが、がん検診によってがん死亡率を低下させるためには精度管理が必要です。がん検診の精度管理には、実施市町村だけでなく都道府県も関与すべきことが平成20年3月「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」(厚生労働省老健局長通知)に示されています。しかし、残念なことに、現在でもがん検診は市町村事業であり、都道府県が関与すべきではないという誤解があるのも事実です。

がん登録データとの照合によるがん検診の精度管理はこれまでいくつかの自治体で実施されており、検診機関が研究として実施した事例もあります。この手法は国際的には主流であり、がん検診の効果を測定し、それを改善させながら事業を展開

させるためには欠かすことができません。ただ、そのためには、がん登録推進法に基づいたデータ提供や全国がん登録データベース上での照合など、都道府県が精度管理に積極的に関与する必要があります。

今年度、そのようなデータ照合の普及を目的に厚生労働省・がん対策推進総合研究事業「がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究」班が発足しました。この研究班の活動内容には、全国でこれまでに実施されたデータ照合の事例を把握し、公表することで普及を促進することも含まれています。

この度、研究班ではそのような過去の事例を把握するためにアンケート調査を実施することとし、事務作業を日本がん登録協議会に委託しました。

今後、都道府県正会員の皆さんのお手元に研究班からのアンケートが届きますので、都道府県がん登録室とご協力いただきながら記入の上、ご回答いただきますようお願いいたします。

第31回日本がん登録協議会学術集会のご案内

小泉 知展 第31回学術集会会長

信州大学医学部附属病院



2022年度の日本がん登録協議会学術集会をお世話させていただき信州大学の小泉知展です。このニュースレターの紙面にてご挨拶申し上げます。

まだコロナ禍の荒波が押し寄せている中、さらに東京オリンピックも始まり、コロナ感染症の終息が予測できない状況ではありますが、長野県松本市で3年ぶりに対面形式での学術集会を準備しています。期日は2022年6月2日(木曜日)から4日(土曜日)に、予定しています(ポスター参照)。

当院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定されて以来長野県の院内がん登録情報の収集・集約を行い、また2010年から地域(全国)がん登録を業務委託されています。長野県は、地域医療への関心も高いことから平均寿命も長く、全都道府県中で一番の長寿を誇っています。また、がんの75歳未満年齢調整死亡率も低く、一方で全国がん登録のがん登録情報からはがん罹患率も低いことが示されています。これらのがん情報の更なる精度および診療の向上を目指す意味でもがん登録

情報は重要ながん対策の羅針盤となると考えて、実務および分析を行っています。

今回の学術集会では、各患者のがん登録の情報をいかに精度よく登録し、収集・整理し、分析することで、その地域行政のがん対策または各病院の診療向上などの利活用まで持っていくか、現場の実務者からがん登録に関わる関係者や行政の方々の参加を募り、学びと情報共有できる機会とし、また日本のほぼ中央に位置する長野県からがん登録情報の有用性を発信できればと思っています。

皆様と直接顔が見える意見交換の学術集会を開催できることを祈念し、また長野県は、国宝松本城、上高地をはじめ観光名所や温泉も多数ありますので、多数の皆様に参加いただき、学びとともに観光も満喫いただければと思っています。

学術集会のホームページの開設は準備中ですが、逐次詳細をホームページ上で更新していきますので、よろしく願います。